

市民活動センター あやせよりお知らせ



■市民活動交流カフェ「デザイナー直伝!! 3つ折りパンフレットの作り方講座」を開催しました。

去る7月8日に中央公民館で開催した市民活動交流カフェでは、NPOにおけるデザイン・広報を専門としているデザイナー、林田全弘氏をお招きし、3つ折りパンフレットの作り方を学びました。23人が参加、「具体的なワークがあり話だけの講座よりわかりやすかった」「役に立つ情報で興味深かった」といった感想が寄せられました。



■市民活動交流カフェ「市民協働事業・ きらめき補助金事業報告会」を開催しました

去る6月3日、平成28年度に市民協働事業を行った4事業、きらめき補助金の交付を受けた5団体の事業成果を報告する市民活動交流カフェを綾瀬市役所で行いました。各事業報告後の意見交換タイムでは、報告会を傍聴した一般市民、事業を実施した団体、市職員と各事業審査委員が4グループに分かれ、それぞれの立場から市民活動や協働事業、補助金制度などについて発言がありました。互いを知ったうえで今後を考える有意義な時間となったようです。

■「夏休みチャレンジボランティア体験」 開催中

17の受け入れ団体による23事業に参加できる夏休みチャレンジボランティア体験が7月18日よりスタートしました。すでに高校生を中心に50人ほどの参加を受け付けています。1人で複数事業への参加もでき、体験にはスタッフが付き添います。9月10日まで随時ボランティアを受け入れていますので、当センターホームページや配布しているチラシをご確認のうえ、お気軽にお問い合わせください。

■パソコン&ポスタープリンター講習会

毎月最終土曜日（8月は第3土曜日）、パソコンの基礎的な操作や当センターにあるポスタープリンターの利用方法の講習会を開催します。

日 時：8月19日、9月30日、10月28日
(いずれも14:00～16:00)

対 象：登録団体の所属、もしくは公益活動をしている方
定 員：5名（要予約、毎月2日から受付）
参加費：100円
場 所：市民活動センターあやせ

※パソコン講習、ポスタープリンター講習を同日開催します。両講習合わせて5名の定員となっており、両方への参加はできません。

市民活動センターあやせ

〒252-1103 綾瀬市深谷 3838 中央公民館内
TEL&FAX：0467-70-1232
Eメール：ayasenposc@gmail.com
開館時間：9:00～22:00
休館日：火曜日、毎月第3水曜日、年末年始
登録団体数：137団体（2017年08月現在）

※ホームページもあります。
「市民活動センターあやせ」で検索してください。



2017年(平成29年)8月 第44号(年4回発行)



よりよい暮らしを市民活動で形にしていこう — 地域の課題に取り組む綾瀬の団体 —

綾瀬市では、多くの市民活動団体が日々の暮らしに現れる課題に目を向けて活動しています。今回は、行政の制度を活用する、行政と協働することで活発に活動している団体を紹介します。

不登校に悩む子どもの学び場を

そら夢の会

2015年に設立された、そら夢の会は、学校に行けない子どもと保護者の居場所をつくとともに、不登校問題の理解を広げていくことを目的に活動しています。白井幸子会長は「保護者同士が思いを共有でき、子どもたちがいろいろなことに前向きに挑戦できる。そんな場所がほしかった」と活動を始めた理由を語ります。

同会では、情報交換を行う懇親会を月に1度開催するほか、不登校問題の現状を伝える「そら夢通信」を定期的に発行しています。また、市のきらめき補助金の交付事業として、専門家を招いた講演や子どものやる気や能力を引き出すためのワークショップを行っています。



絵を描くワークショップの様子

白井会長によると、綾瀬市では現在、小・中学校でおおよそ80人の不登校が確認されており、その数はなかなか減らないのが現状だそうです。同会への問い合わせは市外や県外からも寄せられていて、悩みを抱える人の多さを実感しているとのことでした。「行政でもさまざまな対応をしていますが、当事者が必要としている学び場を私たち自身でもつくりたい」と話していました。

人のつながりをオペラでつくる

綾瀬でオペラを!の会

小学生から80歳以上の高齢者が1つの目標に向かって協力する。そんな場を提供しているのが、綾瀬でオペラを!の会です。「オペラは社会の縮図とも言われています。さまざまな年代のさまざまな分野の人が力を合わせて初めて成り立ちます」と内村由生子会長はオペラの特徴を説明します。



不登校の進学と進級をテーマに行った講演会の様子

2010年に発足後、同会では12年、15年にオーエンス文化会館大ホールでオペラを上演しました。こだわりは、市民の手づくりによる本格的なオペラであること。一流の演出家やオーケストラ、ソリストを迎える一方で、助演や合唱団、衣装・小道具制作、広報活動など、できることはすべて有志の市民が担っています。1回の公演に関わる市民は老若男女合わせて150人近くに及びます。

同会は、市民や企業からの寄付に加え、県の文化芸術活動団体事業補助金を得て活動を継続しています。現在は今年12月に上演するオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」の準備を進めているようで、「関わり方は自由で、経験は一切問いません。多くの方に参加いただき、地域の人とどんどんつながってくれたらうれしいです」と内村会長は語っていました。



2015年に上映したオペラ「アイダ」の様子



衣装制作をしている様子

在住外国人が楽しく生活できるように

綾瀬国際交流の会

綾瀬国際交流の会は、インドシナ難民受け入れを機に増加した在住外国人の支援をするため1988年に結成され、以来、30年近くにわたり日本語教室を続けています。「日本語が理解できず苦労している人がたくさんいました。せっかく日本に来たのだから楽しく過ごしてほしい」と、結成時から活動している仲村逸子会長は当時を振り返ります。

綾瀬市は市民に占める外国人比率が愛川町に次ぎ県内で2番目に多く、東南アジア諸国を中心に、



中村地区センターで行う日本語教室の様子



年末に催されるお楽しみ会の様子

中国やスリランカ、ベトナム人などが生活しています。同会では、中村地区センターで日本語教室を毎週日曜日午後開催、年末には生徒の親睦を深めるお楽しみ会も開いています。また、毎年開催されるあやせ国際フェスティバルにも協力しています。

同会の活動は2016年度に行政提案型の市民協働事業となり、本年度は綾瀬市企画課と協働しています。仲村会長の話では、市と協働することで広く情報が発信できるようになったほか、他の支援グループとの交流機会も増えたようで、「これからは日本語を教えるボランティア講師を増やす活動もしていきたい」とのことでした。

取材した3団体は、市や県の制度をうまく活用しながら地域の課題に取り組んでいます。こうした団体が継続的に活動していけば、暮らしはより豊かになるのだろうと感じました。各団体については下記までお問い合わせください（掲載順）。

※そら夢の会

090-8118-1692（白井 幸子）

※綾瀬でオペラを!の会

090-4202-6724（内村 由生子）

※綾瀬国際交流の会

0467-70-5657（綾瀬市企画課
国際・男女共同参画担当）

あやせ地域づくりカレッジ 開催のお知らせ

— 9月から受講者の受付を開始します

10月7日より、地域づくりを実践する人材の養成を目的とした講座、「あやせ地域づくりカレッジ」（全6回）を開催します。地域福祉をテーマとした先進地視察と講義、研究テーマの設定、実践までのプランを相互に評価するワークショップなどを行います。第1回、第5回の講演会は公開しますので、カレッジ受講者以外も参加可能です。9月より受講者の募集を開始しますので、詳しくは右記問い合わせ先へご連絡ください。



- 主催 綾瀬市、コミュニティサポートあやせ
- 対象 綾瀬市民
- 定員 25名
- 参加費 2,000円
- 申込・問合せ 0467-70-5613（綾瀬市福祉総務課）

カリキュラム

【第1回】10月7日（土）／保健福祉プラザ

内容：公開講演会「真に豊かで魅力と活力あふれる地域社会の実現」
開校式・オリエンテーション、アイスブレイク&自己紹介

【第2回】（※）10月17日（火）／座間市

内容：回想法による認知症の予防と効果、回想法カフェの実際



【第3回】（※）11月24日（金）／大和市

内容：市民が創る子ども食堂、活動者を集める団体運営



【第4回】（※）12月／平塚市

内容：横内町内福祉村の取り組み



【第5回】平成30年1月／保健福祉プラザ

内容：公開講演会「地域経営の理念と実践」または「地域福祉社会の到来と地域経営」、研究テーマ検討（グループ討議）

【第6回】平成30年2月／保健福祉プラザ

内容：自主研究発表、閉会式

※は現地視察。綾瀬市役所から現地までバスで移動（7月31日時点で決定した内容です。詳しくは9月発行の広報あやせ、市民活動センターあやせ、公共施設などで告知します。応募の際は最新の情報を必ずご確認ください）

自身の価値や立ち位置を見つけて地域の一員に

手塚明美（あやせ地域づくりカレッジ スーパーバイザー、神奈川大学講師）



日本には古くから地域のことを自分の事として進めてきた歴史があります。たとえば江戸時代の下町の火災への対応は見事です。幕府の火消しは下町を活動エリアにしていなかったため、自衛軍の様相で、住人が職能を活かして対処していました。大量の水を使って火を消す技術がない中で、燃え広がらないように延焼家屋を倒すという画期的な方法も編み出しています。まさに今で言うところのプロボノ（専門性を活かした社会貢献活動）的なボランティアではなかったかと思うのです。

地域に何が必要かを考えるとき、大切なのは生活者の視

点です。コミュニティーの中で暮らすことにより地域を知り、自分以外の人やモノに目を向けることで、自分自身の価値や立ち位置が見えてきます。このカレッジでは、市民生活に密着した事例をもとに、持続可能な取り組みを創り出す方法を学んでいきます。できることや興味のあること、今後の生活に何が重要と考えているかなど、自分自身を知る機会にもなるでしょう。地域づくりを担う一員として、新しい一歩を踏み出すきっかけにしてほしいと思います。